

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-221482

(43)公開日 平成8年(1996)8月30日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
G 0 6 F 17/60			G 0 6 F 15/21	3 1 0 Z
15/00	3 3 0	9364-5L	15/00	3 3 0 F
		9364-5L		3 3 0 G
G 0 7 D 9/00	4 6 1		G 0 7 D 9/00	4 6 1 B
H 0 4 M 11/00		9465-5G	H 0 4 M 11/00	

審査請求 未請求 請求項の数12 OL (全 8 頁) 最終頁に続く

(21)出願番号 特願平7-21993

(22)出願日 平成7年(1995)2月9日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 野邑 直正

東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会
社東芝青梅工場内

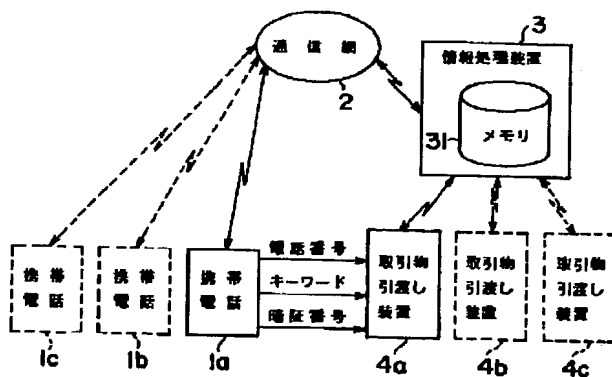
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【発明の名称】 取引物引渡し方法及びシステム

(57)【要約】

【目的】 コストや手間をかけずに取引請求のあった顧客に取引物を安全かつ確実に引渡す。

【構成】 携帯電話 1 a, 1 b, 1 c を所有する顧客のうちのいずれかから通信網 2 を介して取引の請求があった場合、業者の所有する情報処理装置 3 は、その顧客の所有する携帯電話の電話番号をメモリ 3 1 に登録する。この後、ある顧客が取引物を受け取るため、例えば取引物引渡し装置 4 a の所に携帯電話を持参してきた場合、その携帯電話の電話番号を入力し、メモリ 3 1 に登録しておいた電話番号と一致するか否かを調べる。電話番号が一致したならば、次に、この電話番号に基づき認証のためのキーワードを送信し、顧客が持参してきた携帯電話が当該キーワードを受信するか否かを確認する。キーワードが一致したならば、対応する取引物を出す。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 顧客から取引の請求があった場合に、当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録するステップと、

顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認するステップと、

前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認するステップと、

上記キーワードの一致が確認された場合、対応する取引物を出すステップとを有することを特徴とする取引物引渡し方法。

【請求項2】 前記キーワードの受信を確認するステップは、前記キーワードを受信する携帯用無線端末から当該キーワードを出力させるステップと、顧客が持参してきた携帯用無線端末から出力されるキーワードを入力するステップと、この入力されたキーワードが送信された前記キーワードに一致するか否かを判別するステップとを有することを特徴とする請求項1記載の取引物引渡し方法。

【請求項3】 前記出力ステップは、前記キーワードを音声にして発音させるステップを有し、前記入力ステップは、発音された前記音声を検出するステップを有することを特徴とする請求項2記載の取引物引渡し方法。

【請求項4】 前記出力ステップは、前記キーワードを文字で表示させるステップを有し、前記入力ステップは、表示された前記文字を検出するステップを有することを特徴とする請求項2記載の取引物引渡し方法。

【請求項5】 顧客から取引の請求があった場合に、暗証番号を決めて当該顧客に通知するとともに、この暗証番号と当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録するステップと、

顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認するステップと、

前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認するステップと、

上記キーワードの一致が確認された場合、顧客の認証を行うため、その顧客から暗証番号を受け入れ、記録しておいた暗証番号と一致するか否かを確認するステップと、

上記暗証番号の一致が確認された場合、対応する取引物を出すステップとを有することを特徴とする取引物引渡し方法。

【請求項6】 顧客から取引の請求があった場合に、当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録する手段と、

顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認する手段と、

前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認する手段と、

上記キーワードの一致が確認された場合、対応する取引物を出す手段とを具備したことを特徴とする取引物引渡しシステム。

【請求項7】 前記キーワードを受信する携帯用無線端末は当該キーワードを出力する手段を具備し、前記キーワードの受信を確認する手段は、顧客が持参してきた携帯用無線端末から出力されるキーワードを入力する手段と、この入力されたキーワードが送信された前記キーワードに一致するか否かを判別する手段とを具備したことを特徴とする請求項6記載の取引物引渡しシステム。

【請求項8】 前記出力手段は、前記キーワードを文字として表示するディスプレイであり、前記入力手段は、表示された前記文字を撮し取るカメラであることを特徴とする請求項7記載の取引物引渡しシステム。

【請求項9】 前記出力手段は、前記キーワードを音声で発音するスピーカであり、前記入力手段は、発音された前記音声を聴き取るマイクであることを特徴とする請求項7記載の取引物引渡しシステム。

【請求項10】 前記携帯用無線端末は携帯電話であることを特徴とする請求項5記載の取引物引渡しシステム。

【請求項11】 前記携帯用無線端末は携帯用無線呼出機であることを特徴とする請求項5記載の取引物引渡しシステム。

【請求項12】 顧客から取引の請求があった場合に、暗証番号を決めて当該顧客に通知するとともに、この暗証番号と当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録する手段と、

顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認する手段と、

前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認する手段と、

上記キーワードの一致が確認された場合、顧客の認証を行うため、その顧客から暗証番号を受け入れ、記録しておいた暗証番号と一致するか否かを確認する手段と、

上記暗証番号の一致が確認された場合、対応する取引物を出す手段とを具備したことを特徴とする取引物引渡しシステム。

上記暗証番号の一致が確認された場合、対応する取引物を出す手段とを具備したことを特徴とする取引物引渡しシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、顧客から電話等によって請求された取引物を後で引き渡す取引物引渡し方法及びシステムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来の取引物引渡し方法及びシステムにおいては、次のような手順で取引物の引渡しが行われる。まず、顧客から電話等により取引の請求があった場合、取引物を引渡す際の認証のために記号列（暗証番号）を顧客に通知する。顧客は、上記記号列の通知を受けた際に、その記号列を忘れないようにメモを取る。顧客はそのメモを携えて引渡し所まで行き、メモしておいた記号列を伝える。そして、この記号列に基づいて照合が行われ、一致すればその顧客は所望の取引物を受け取れることになる。

【0003】また、引渡す際の顧客の認証を強化するために、近年、登録カード（IDカード）を使用する方法が採用されている。この場合、登録カードはあらかじめ顧客ごとに発行され、各登録カードにはその顧客を認証するための登録番号が付されている。顧客は、電話等により取引の請求を済ませた後、自分が所有する登録カードを持って引渡し所まで行き、その登録カードを差し出す。そして、この登録カードに示される登録番号に基づき照合が行われ、一致すればその顧客は所望の取引物を受け取れることになる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、従来の取引物引渡し方法及びシステムによれば、各顧客は、記号列が通知されるので、わざわざその記号列をメモしなければならず、手間がかかっていた。また、メモを取り損なったり、違う記号列をメモしてしまったり、記号列を記したメモを紛失したり、引渡し所にメモを持ってくるとのを忘れたりした場合には、所望の取引物を引き取れなくなる。さらに、記号列を他人に知られてしまう危険があり、メモされた記号列の認証は必ずしも安全とはいえない。こうしたことから、取引物の引渡しの際には係員が介在する必要がある。

【0005】また、登録カードを採用する方法によれば、顧客ごとに登録カードを発行しなければならないため、コストと手間がかかってしまう。また、顧客としても自己の登録カードを管理しなければならないので手間がかかってしまう。また、登録カードは傷むと使用できなくなり、再発行しなければならない。

【0006】本発明は上記実情に鑑みてなされたもので、コストや手間をかけずに取引請求のあった顧客に安全かつ確実に取引物を引渡す取引物引渡し方法及びシ

テムを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明に係る取引物引渡し方法は、顧客から取引の請求があった場合に、当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録するステップと、顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認するステップと、前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認するステップと、上記キーワードの一致が確認された場合、対応する取引物を出すステップとを有することを特徴とする。

【0008】また、本発明に係る取引物引渡しシステムは、顧客から取引の請求があった場合に、当該顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号を記録する手段と、顧客が持参してくる携帯用無線端末の呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを確認する手段と、前記呼出し番号の一致が確認された場合、顧客が持参してきた携帯用無線端末の認証を行うため、当該呼出し番号に基づきキーワードを対応する携帯用無線端末に送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを確認する手段と、上記キーワードの一致が確認された場合、対応する取引物を出す手段とを具備したことを特徴とする。

【0009】

【作用】顧客から取引の請求があったとき、その顧客の所有する携帯用無線端末の呼出し番号が記録される。この後、顧客が自己の携帯用無線端末を持参してきたならば、その携帯用無線端末からその呼出し番号を入力し、記録しておいた呼出し番号と一致するか否かを調べる。もし、呼出し番号が一致すれば、次に、上記呼出し番号に基づき認証のためのキーワードを送信し、顧客が持参してきた携帯用無線端末が当該キーワードを受信するか否かを調べる。もしキーワードが一致すれば、対応する取引物を出す。こうして、取引を行った顧客は所望の取引物を受け取ることができる。したがって、コストや手間をかけることなく、取引物を取引請求のあった顧客に安全かつ確実に引き渡すことができる。

【0010】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の一実施例を説明する。図1は、本発明に係る取引物引渡しシステムの全体構成を示すブロック図である。

【0011】図1に示すように、本実施例では、例えば携帯電話1a、1b、1cが利用されるものとする。これら携帯電話1a、1b、1cは、それぞれの顧客が所有するものである。各携帯電話1a、1b、1cは、自己の電話番号（呼出し番号）やその他の情報を内蔵メモ

り（図示せず）に記憶しており、それに備えられるボタン等を押すことにより、これらの情報を無線で外部に送信したり、ディスプレイ（図示せず）上に表示させたり、スピーカ（図示せず）から音声として発音させたりする機能を有している。また、外部からキーワード（後述）を無線で受信した場合も、そのキーワードをディスプレイやスピーカから出力することができるようになっている。

【0012】通信網2は、上記の携帯電話1a、1b、1cと後述する情報処理装置3との間に位置しており、携帯電話1a、1b、1cの各々が個別に情報処理装置3とデータの送受ができるように制御する。なお、通信網2と情報処理装置3との間のデータの送受は、無線と有線のどちらで行っても構わない。この通信網2には、移動中でもデータの送受を正常に行うための複数の無線基地局や制御局が含まれる。

【0013】情報処理装置3は、例えばチケット等の商品を販売する業者が所有するものである。この情報処理装置3は、上記通信網2を介して顧客から取引の請求を受けると、その顧客の所有する携帯電話の電話番号を入力して、メモリ31に登録する。この際、情報処理装置3は、その取引内容（引き渡すべき取引物の内容等）を示すための取引情報を作成し、上記電話番号とともに登録する。

【0014】また、後で対応する取引物を引渡し時の顧客の認証を確実にするため、上記情報処理装置3は上記取引の際に暗証番号を決めて、顧客本人にこれを通知する。また逆に、上記取引の際に暗証番号を顧客に自由に指定させるようにしてもよい。この暗証番号は、上記電話番号とともにメモリ31に登録されることになる。

【0015】取引物引渡し装置4a、4b、4cは、例えば街頭や駅前に設置されており、取引した携帯電話の所有者（顧客）がその携帯電話を持参してきたときに、該当する取引物を直接引き渡すための装置である。これらの取引物引渡し装置4a、4b、4cは、取引をした顧客に対応する取引物を引き渡すため、顧客に対してデータ入力等の操作をするよう指示する。各取引物引渡し装置4a、4b、4cの外観は、図2に示す通りである。

【0016】図2に示すように、各取引物引渡し装置には、取付け台21、入力キー22、カメラ23、マイク24が備えられている。取付け台21は、顧客が持参した携帯電話を取り付けるための台である。

【0017】入力キー22は、後述するキーワードや暗証番号を顧客が入力する際に使用される。また、必要に応じ、顧客の所有する携帯電話の電話番号も入力される。カメラ23は、上記取付け台21に取り付けられる携帯電話のディスプレイに表示される文字、数字、記号等を撮し取るために使用される。一方、マイク24は、上記取付け台21に取り付けられる携帯電話のスピーカ

から発音される音声を聴き取るために使用される。

【0018】また、上記取引物引渡し装置には、取引物を顧客に出すための引渡し部25が設けられる。この引渡し部25は、通常時は閉じた状態となっており、顧客や携帯電話の認証が成功した場合に、開いて相当する取引物を払い出す。

【0019】図1に示す各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、それぞれ上記した通りの同じ構成要素を有しており、携帯電話1a、1b、1cの各所有者はどの取引物引渡し装置をも利用することができる。また、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、通信回線を通じて上記情報処理装置3と接続されており、必要に応じて情報処理装置3のメモリ31に登録されているデータ（顧客の所有する携帯電話の電話番号、暗証番号、取引情報等）にアクセスできるようになっている。

【0020】各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、顧客の持参する携帯電話の認証を行うため、取り付けられた携帯電話から上記カメラ23やマイク24を介してその電話番号を入力するとともに、この電話番号に基づいて上記メモリ31に登録されている各顧客の電話番号を検索し、一致するものが存在するか否かを調べる。

【0021】また、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、いま取り付けられている携帯電話が本当に上記電話番号に相当するものなのかどうかをさらに調べる。すなわち、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、当該電話番号に基づいて対応する携帯電話を呼出し、続いてその携帯電話にキーワードを送信することによって、顧客の持参する携帯電話が当該キーワードを受信するかどうかを確認する。

【0022】このとき取り付けられている携帯電話が上記電話番号に相当するものであれば、その携帯電話のディスプレイ上に上記キーワードが表示されるか、又は、そのキーワードが音声として発音されることになる。そして、送信したキーワードと同じものが上記カメラ23又はマイク24を介して検出された場合には、正真の携帯電話であると判断する。したがって、上記キーワードは、顧客の持参する携帯電話の認証をさらに確実なものとするために使用されるものである。

【0023】また、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、いま目の前にいる顧客が本当にその携帯電話の所有者であるのかどうかを調べる。すなわち、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、顧客に暗証番号を入力キー22（図2）により入力させ、一致するかどうかを確認する。このとき、入力される暗証番号が上記電話番号とともにメモリ31に登録されている暗証番号と一致する場合には、正真の顧客であると判断する。したがって、上記暗証番号は、顧客の認証を行うために使用されるものである。

【0024】このように、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、電話番号の一致、キーワードの一致、さら

に必要があれば暗証番号の一致を確認した後、取引物を出す。

【0025】なお、各取引物引渡し装置4a、4b、4cは、取引物であるチケット等を顧客に引き渡すとき、その場でそのチケットを作成するための機能を有している。この場合は、上記情報処理装置3のメモリ31等に予め記憶されているチケット作成のために必要な情報を参照し、この情報に基づいて紙等に印字することにより作成される。

【0026】次に、上記実施例の動作を図3のフローチャートを参照して説明する。例えば携帯電話1aを所有する顧客が取引を行うため、その携帯電話1aより、通信網2を介して業者の所有する情報処理装置3に接続する(ステップS31)。

【0027】顧客と業者との取引が行われて取引情報が作成され、情報処理装置3内のメモリ31に登録される(ステップS32)。また、情報処理装置3は、顧客の所有する携帯電話1aの電話番号を検出し、この電話番号を上記取引情報とともにメモリ31に登録する(ステップS33)。

【0028】次に、情報処理装置3は暗証番号を決める。そして、情報処理装置3は、その暗証番号を顧客に通知するとともに、上記電話番号とともにメモリ31に登録する(ステップS34)。

【0029】次に、顧客は、自己の携帯電話1aを、例えば取引物引渡し装置4aの設置されている所まで持参する(ステップS35)。顧客は、取引物引渡し装置4aの指示に従い、携帯電話1aを取り付け、その携帯電話1aに備えられるボタン等を押してその電話番号をディスプレイ上に表示させるか、又は、スピーカから音声として発音させる。これにより、この電話番号はカメラ23又はマイク24を介して入力される(ステップS36)。

【0030】取引物引渡し装置4aは、読み込んだ電話番号に基づいて上記情報処理装置3内のメモリ31に登録されている各顧客の電話番号を検索し、上記電話番号に一致するものが検出された場合は、いま取り付けられている携帯電話が正真なものであると見なし、次のステップに進む。一方、一致するものが検出されない場合は、その携帯電話は正真なものではないと見なし、顧客に取引物を引き渡さない旨を知らせて終了する(ステップS37)。

【0031】次に、取引物引渡し装置4aは、上記携帯電話の認証性をさらに確実なものとするため、上記電話番号に対応する携帯電話を呼び出す(ステップS38)。この呼出により対応する携帯電話と接続できたならば、次いで、上記携帯電話の認証を確実なものとするためのキーワードを送信する(ステップS39)。これにより、キーワードを受信した携帯電話は、そのディスプレイ上にキーワードを表示するか、又は、音声として

そのキーワードを発声する。

【0032】一方、カメラ23又はマイク24は、いま取引物引渡し装置4aに設置されている携帯電話1aのディスプレイの表示又は音声を入力する(ステップS40)。

【0033】次に、取引物引渡し装置4aは、送信したキーワードと上記カメラ23又はマイク24から入力したキーワードとを比較し、一致した場合は、いま取り付けられている携帯電話が正真なものであると見なし、次のステップに進む。一方、一致しない場合は、その携帯電話は正真なものではないと見なし、顧客に取引物を引き渡さない旨を知らせて終了する(ステップS41)。

【0034】次に、いま操作している顧客が正真の顧客であるかどうかを調べるため、暗証番号の入力をその顧客に要求する。これに応じて、顧客は暗証番号を入力する(ステップS42)。そして、上記一致を確認した電話番号に付されている暗証番号と上記入力した暗証番号とを比較し、一致した場合はいま目の前にいる顧客が正真な顧客であると見なし、次のステップに進む。一方、一致しない場合は、その顧客は正真な顧客ではないと見なし、顧客に取引物を引き渡さない旨を知らせて終了する(ステップS43)。

【0035】次に、払い出し部25を開いて取引物を出す(ステップS44)。そして、取引物引渡し装置4aによる処理が終了する。本実施例では、携帯電話を使用する場合を説明したが、これには限定されず、移動電話、自動車電話、携帯用無線呼出機(ページャ端末)のような受信機能を備えた携帯用無線端末であれば何でもいい。なお、取引の請求は、顧客は携帯用無線端末を用いずに例えば有線電話により行うことができる。このとき、顧客は、後で持参する自己の携帯用無線端末の呼出番号を情報処理装置に知らせる。

【0036】以上説明したように、本実施例では携帯電話を使用しているので、顧客は例えば外出中に自己の携帯電話で商品を注文し、その後すぐに最寄りの取引物引渡し装置に立ち寄って所望の商品を手軽に受け取れるという便利さがある。

【0037】また、本実施例において顧客に知らせる暗証番号に取引の受付番号を示すコードを含ませるようにすれば、後で顧客が入力する暗証番号に基づき、取引物引渡し装置はその受付番号を知ることができるので、顧客は複数の取引を連続して行うことができる。

【0038】本実施例では、取引物の例としてチケットを挙げたが、これに限定されず、貴金属やその他の物品にも適用できる。また、本実施例で説明した、顧客との取引の際に通知する暗証番号は、その取引内容を示すものであってもよい。また、本実施例では、情報処理装置が取引の際に暗証番号を決め、顧客本人にこれを通知する場合を説明したが、逆に、上記取引の際に暗証番号を顧客に自由に指定させるようにしてもよい。

【0039】本実施例では、顧客が持参してきた携帯電話から出力される電話番号を、カメラ又はマイクを介して取引物引渡し装置に入力する場合を説明したが、代わりに、顧客に対してその電話番号を入力キーにより入力させるようにしてもよい。

【0040】また、本実施例では、顧客が持参してきた携帯電話から出力されるキーワードを、カメラ又はマイクを介して取引物引渡し装置に入力する場合を説明したが、代わりに、出力されるキーワードを顧客に感知させ、感知したキーワードをそのまま入力キーで入力させるようにしてもよい。すなわち、取引物引渡し装置4aは、顧客に対し、携帯電話のディスプレイに表示されるキーワードの字を見て、その表示された字の通りに入力キーで入力するよう指示するか、又は、携帯電話のスピーカから発音されるキーワードの音声を聴いて、その聴こえた音声の通りに入力キーで入力するよう指示する。

【0041】本実施例では、暗証番号を用いて顧客の認証を行う場合を説明したが、この認証手続きは省略することも可能である。認証手続きを省略する場合は、取引時に暗証番号を決めたり顧客に暗証番号を指定させたりする必要はない。

【0042】また、本実施例では、携帯電話はボタン等を押すことによってその電話番号をディスプレイに表示させたり、スピーカから発音させることができる場合を説明したが、これらの機能を無くすようにすれば、盗難にあった場合でもその電話番号が知られることはないの

で、安全性を高めることができる。

【0043】

【発明の効果】以上詳記したように本発明によれば、登録カードのようなものを発行する必要はない。したがって、業者にとっては登録カードを発行するための手間やコストを削除ことができ、顧客にとっても登録カード等を管理する必要がなくなる。

【0044】また、顧客が自己の携帯用無線端末を紛失した場合であっても、ほとんどの顧客は自己の携帯用無線端末の電話番号を覚えているため、防犯等の対策をすばやく講じることができ、安全性が高い。さらに、顧客の携帯用無線端末が盗難にあった場合であっても、取引した事実が知られていない限り、所望の取引物を横取りされる危険がない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る取引物引渡しシステムの全体構成を示すブロック図。

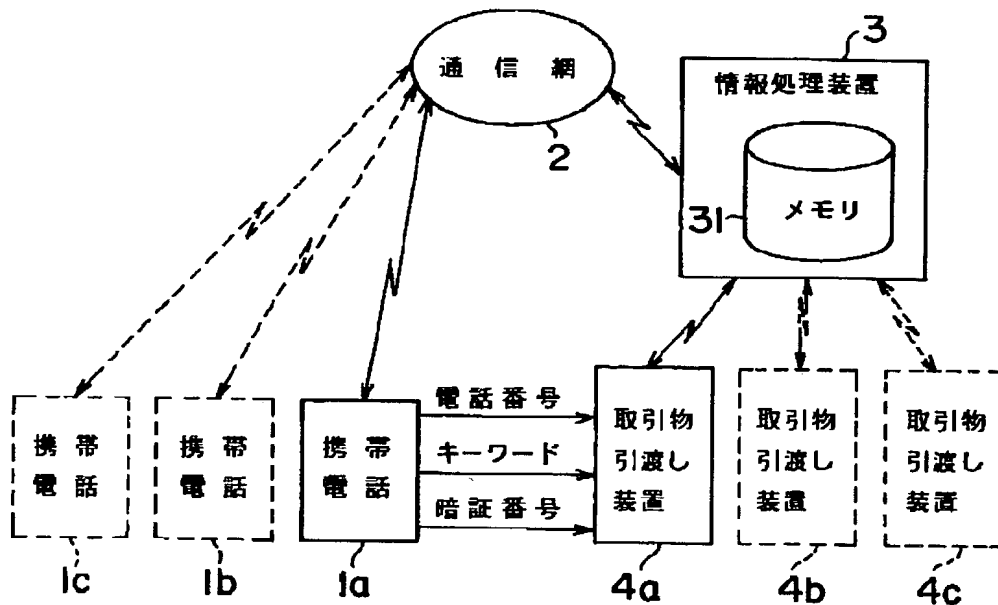
【図2】同実施例における取引物引渡し装置の構成を示す斜視図。

【図3】同実施例に係る取引物引渡しシステムの動作を示すフローチャート。

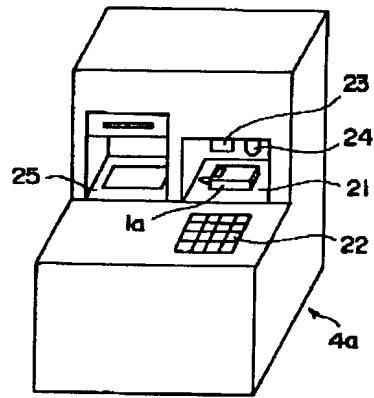
【符号の説明】

1a、1b、1c…携帯電話、2…通信網、3…情報処理装置、31…メモリ、4…取引物引渡し装置、21…取付け台、22…入力キー、23…カメラ、24…マイク、25…引渡し部。

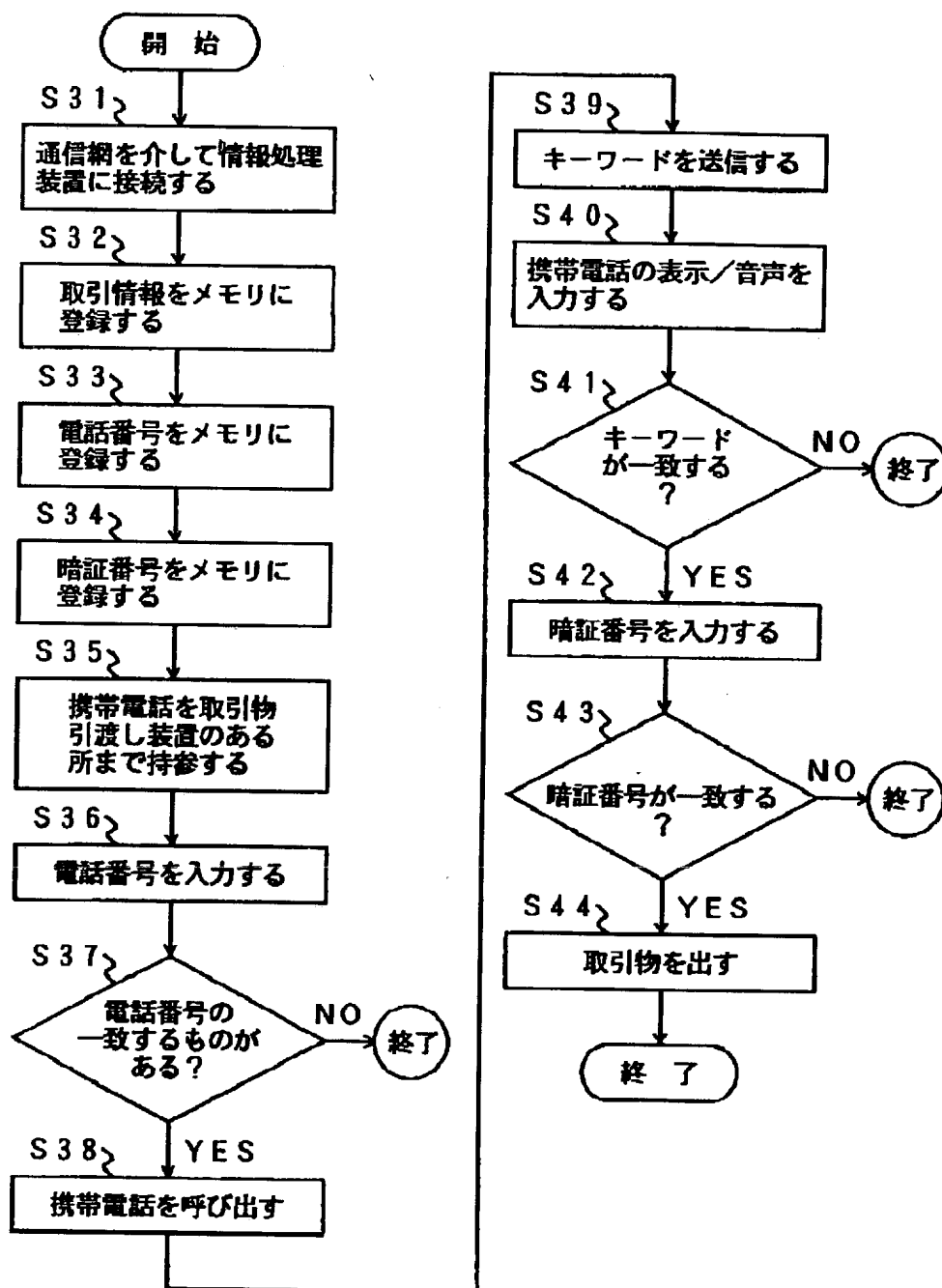
【図1】



【図2】



【図3】



フロントページの続き

(51) Int. Cl. 6

// G 0 7 G 1/12

識別記号

3 6 1

庁内整理番号

F I

G 0 7 G 1/12

技術表示箇所

3 6 1 Z